



しまたに 健康倶楽部(季節号)



令和 4年 7月
第 49 巻 夏号

医療法人信英会 島谷病院, 721-0955, 福山市新涯町 2-5-8, 電話 084-953-5511
ホームページ <http://kaiinhp.fmed.jp/shimatani/>
メール shimatani@fmed.jp

夏号 トピックス

介護医療院 デイジー港南オープン

- 1 デイジー港南
- 2 介護医療院とは？
- 3 介護医療院のメリット
- 4 介護医療院のデメリット
- 5 新しい生活様式の熱中症予防

令和 4年 6月 から介護療養型医療施設から介護医療院「デイジー港南」に転換いたしました。

介護医療院とは、要介護高齢者の長期療養・生活のための施設です。

要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護および機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設です。

これまでの介護療養型医療施設と比べると、医療だけでなく日常生活にも重点を置いた施設となっています。



もっと詳しく、介護医療院

介護医療院は、2018年4月に新しく定義づけられた高齢者向け施設です。もともとあった介護保険施設「介護療養型医療施設（療養病床）」の機能を引き継ぐ形で「介護医療院」が創設されました。

これまでの介護を必要とする介護保険施設入所者にも、医療の必要性の高低にかかわらず、病態によっては容体が急変するリスクを抱える方もあり、そうしたニーズに完全に対応可能な介護保険サービスが存在せず、そうした高齢者の増加が想定されているため新たな選択肢を検討する必要があるのではないかという問題意識がありました。

そこで誕生したのが介護医療院で、単なる療養病床等からの移行先ではなく、「住まいと生活を医療が支える新たなモデル」として、また「利用者の尊厳の保持」と「自立支援」、「地域に貢献し地域に開かれた交流施設」としての役割を担うことが期待されます。

介護医療院のメリット

介護医療院は、特別養護老人ホームのような高齢者が生活するための介護施設の機能と、適切な医療を受けられる病院の機能、両方を兼ね備えた施設だといえるでしょう。体調に不安があり、長期的な療養生活が必要な人には、安心感のある生活をおくることができる施設といえます。そのため、看取りまでの長期的な入院や自立支援も含めたリハビリが受けられることが挙げられます。

－ 基本理念 －

『患者様と共に悩み、そして
共に歩み続ける病院』



医療・療養に関するご質問・ご相談等は、総合案内（受付）または地域連携室・在宅ケア室までお気軽にお問い合わせください。

－ 基本方針 －

1. 説明と同意の原則に基づき、納得のできる医療を提供します。
2. チーム医療を行い、安全な医療、快適な医療環境を提供します
3. 研鑽を怠らない、変われる自分を目指します。
4. 健全な経営、開かれた経営を行い、地域・社会に貢献します。

ホームページ



介護医療院のデメリット

介護医療院のデメリットとしては、以下の3点が挙げられます。

- ・介護保険サービス費用に加え、医師や看護師が多いため利用料が高額になる傾向がある。
- ・個室がない場合がある。
- ・数が少ないため、選択肢が狭まる。

介護医療院では、介護保険サービス費用以外にも、食費や居住費などがかかります。長期間入居していれば、その分総支払額も高額になっていきますし、将来要介護度が上がって費用が高くなる可能性もあります。

以上簡単でしたが、介護医療院のお話しでした。今後、急速に増えていくと予測される医療ニーズのある要介護高齢者の生活を医療と介護で支える施設として、介護医療院の理念と役割を十分に理解していただき、地域の中で成熟し、さらなる努力を続けサービスの質の向上につながっていくことを祈ります。

(引用：厚労省ホームページ掲載、「介護医療院公式サイト」より。)



新しい生活様式の熱中症予防

新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人一人が感染防止の3つの基本である[1]身体的距離の確保、[2]マスクの着用、[3]手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策をこれまで以上に取り入れた生活様式を実践することが求められています。

今夏も、これまでとは異なる生活環境下であることから、例年以上に熱中症に気をつけることが重要です。十分な感染対策を行いながら、熱中症予防対策をこれまで以上に心がける必要があります。

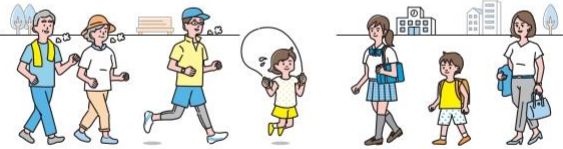
必要な熱中症予防行動について、環境省と厚生労働省のホームページより一部抜粋しましたのでご活用下さい。

屋外ではマスク着用により、熱中症のリスクが高まります

特に運動時には、忘れずにマスクをはずしましょう



屋外での散歩やランニング、通勤、通学等も
マスクの着用は必要ありません



・人の距離(2m以上を目安)が確保できて、会話をほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要はありません。
・マスクを着用する場合でも、屋内で熱中症のリスクが高い場合には、エアコンや扇風機、換気により、温度や湿度を調整して暑さを避け、こまめに水分補給をしましょう。

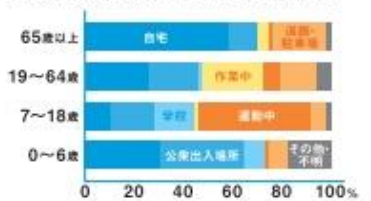
知っておきたい 熱中症に関する大切なこと



熱中症警戒アラート発表時は
熱中症予防行動の徹底を

運動は原則中止。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。

■年齢・発生場所別/熱中症患者の発生割合



出典：国立環境研究所「熱中症患者速報(2015年)」を基に作成

高齢者の熱中症は
半数以上が自宅で発生

高齢者は自宅を涼しく、若い世代は作業中、運動中に注意が必要です。



感染症対策におけるマスクの着用について



一 患者様の権利一

1. 良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
2. 医療について十分な説明を受け、ご自身で選択する権利があります。
3. 個人情報にかかるプライバシーは守られる権利があります。
4. 他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。

医療法人信英会 島谷病院

721-0955 福山市新涯町 2-5-8
 電話番号：084-953-5511
 FAX 番号：084-953-7304
 電子メール：shimatani@fmed.jp

